



東陽の旋風^{かぜ} ～自立貢献～

令和4年7月15日（金）No 14発行
文責：松本 卓也

「自律」できる自分に ～くまもと「親の学び」プログラム次世代編～

家庭は、教育の原点であり、全ての教育の出発点です。しかし、少子化や核家族化の進行等により家庭の教育力の低下が指摘されており、学校や地域、事業者、行政等、県民みんなで家庭教育を支えていくことを目的として、熊本県では、平成25年4月に「くまもと家庭教育支援条例」が施行されました。家庭教育支援の一環として、親としての学びの機会や親同士のつながりを作る機会を提供するため、保護者向けに「親の学び」講座が、まもなく大人になる高校生や中学生向けに、「親の学び（次世代編）」講座が実施されています。

今年度、「親の学び」次世代編実践協力校として東陽中が選ばれ、8日（金）5校時に講座を開催しました。取組のようすを参観するため、県教育庁市町村教育局社会教育課長様を始め、5名の方が来校されました。講師は、八代市教育委員会生涯学習課のK社会教育指導員です。（以前、本校にも勤務されており、PTA会長は当時の教え子だそうです。）

今回のプログラムは、「『私の意見と親の意見』～スマホの利用を通して～」。スマートフォンは使い方によっては便利でもあり、また、危険性も伴うことを知った上で、どのような使い方が望ましいかを考え、家族の一員として自覚を高めることがねらいです。

1. よく見られるネットのトラブルや対処法について学ぶ
2. 携帯・スマホの利用に際して、特に大切だと思うキーワードを、「①目的、②安全、③フィルタリング、④相手、⑤節度、⑥相談、⑦その他」の中から優先順位をつけて、3つ選ぶ
3. スマホの利用について「子どもの立場」と「親の立場」に立って意見を互いに出し合う

感想では、「親には逆らえないことがわかりました。」「子どもの立場でしか考えていなかったけど、両方の立場に立って考えることが大切」等、一人一人が使用実態に応じてよく考えていました。

最後に、講師の方からスマホやネットをきっかけに「自律」できる自分になってほしいと願いを込めて話されました。スマートフォンを利用する際は、親と子がどちらも納得できる安心安全な使い方を考えることが大切です。ご家庭で、スマートフォンの利用について改めて話し合いの機会を持たれてください。



教師修養 ～1年理科研究授業～

6日（水）、熊本大学教育学部附属中学校から講師をお招きして1年生の理科で研究授業を行いました。本時のめあては「温かい水が冷たい水に浮くのはなぜだろうか？」。学習者用タブレット端末を活用しながら、温度によって水の密度が変化することを結果から見だし、理由を説明していました。「やってみよう」「なるほど」が生まれた授業でした。



物語の世界にひたる

家庭、地域、学校等において子どもが読書に親しむ機会を設ける一環として、12日（火）、朝自習の時間に「読み聞かせ」を実施しました。

お越しいただいたのは、読み聞かせの会の3名の皆様方。東陽小学校や東陽中学校の読み聞かせを10年以上されており、落ち着いた語り口に子どもたちも吸い込まれるように、聞き入っていました。



※ご意見や感想をお待ちしています。「見ました」の一言でも構いません。

保護者名（ ）